

		機関番号	3 2 6 0 4
所属研究機関名称		大妻女子大学	
研究 代表者	部局	比較文化学部	
	職	准教授	
	氏名	渡邊 顕彦	

5. 研究実績の概要

6. キーワード

7. 現在までの進捗状況

(1/3)

1 版

8. 今後の研究の推進方策

2020年度はオーストリアにおける国外研修を予定している。教育義務が免除される期間を活用し、ミュンヘンとコブレンツの写本に残される17世紀日本関係ラテン語イエズス会劇2点の校訂・英訳・注釈を可能な範囲で仕上げ、出版の準備をする予定である。同時に必要に応じてコブレンツとミュンヘンへの研究調査を行いたい。

2021年度は2020年度の作業を続行すると共に、8月にベルギー・ルーヴェンで開催される国際新ラテン語学会大会で本研究にかかわる発表を行う予定である。

なお2019年度終盤から2020年度初頭にかけて発生した新型コロナウイルス流行により2020年度初頭の研究も大きな影響を受けており、例えば2020年6月にリスボンで参加予定であった国際学会は2021年に延期され、またオーストリアにおける国外研修も一時延期となり現在は国内待機しながら研究を続行している。しかし状況が以前の状態に復帰すればなるべく予定通り研究を続ける計画である。

9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

2020年度オーストリアにて行う予定であった国外研究のため研究資料を国外に送付する予定であったが、新型コロナウイルス流行のため国外研究開始が延期となり、送付費用も当該年度には発生しなくなった。新型コロナウイルス流行が収束し国外研究が可能になれば送付費用に使用する予定。

10. 研究発表（令和元年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 渡邊顕彦
2. 発表標題 近世ラテン語、古典受容と16～17世紀の日本人
3. 学会等名 日本における西洋古典受容（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊顕彦
2. 発表標題 西洋古典
3. 学会等名 21世紀の人文知とは 世界の古典学から考える（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiko Watanabe
2. 発表標題 Iam fraus liquescit: The Munich Victor Play and Jesuits as Purveyors of Information on Early Modern Japan
3. 学会等名 ICAS 11 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4. 備考

-